



馬總統就任演説要旨

2008.5.20 18:41

馬英九總統の就任演説の要旨は次の通り。

【民主の意義】

(陳水扁政権下で)人民の信頼は地に落ち、経済は安心感を失い、国際(社会の)支持も損なわれた。だが、台湾人民は、クリーンな政治、経済開放、(社会の)調和、兩岸平和、未来志向の道を選んだ。台湾はアジアと世界の民主主義の灯台と称賛され、中華民国は国際社会で尊敬される民主主義国家になった。われわれはこれを自慢せず、さらに民主の質を向上させ、中身の充実を追い求める。

【新しい社会】

台湾は島国であり、開放すれば栄え、閉鎖すれば衰退する。これは歴史の鉄則だ。われわれは開放を堅持し、規制緩和で民間活力を解き放し、台湾の優位性を発揮させる。もう一つの重要な任務は、人民の信頼回復だ。和解共生の環境創出に取り組み、政党間対立を調和へと導いていく。クリーンな政治を確立し、役人には清廉と効率を求め、汚れた金権政治を変える。

【中台関係】

米国との協力関係を強化する。われわれには台湾の安全を守る決意があり、合理的な国防予算を編成、必要な防御兵器を購入し、国防力を整備する。「『3つのノー』(統一せず、独立せず、武力行使を許さず)」の理念に立ち、台湾海峡の現状を維持する。台湾は尊厳が必要で、大陸が国際的な圧力をやめてこそ、兩岸関係は安定して前に向け発展できる。兩岸は海峡と国際社会において、和解休戦しなければならない。

【台湾と中華民国】

台湾生まれではないが、台湾は私を育てた故郷で、家族の骨を埋める地でもある。台湾社会が私のような戦後の新移民を義をもって包み、恩をはぐくみながら受け入れた情に感謝する。私は全力を尽くすしかない。中華民国は台湾で生まれ変わった。任期内に創立100周年を迎えるが、大陸にいたのはわずか38年で、台湾では60年を超えた。国父、孫文先生の民主憲政の理想は、大陸では実現できなかったが、今日、台湾で根を下ろし、開花して実った。

台湾民主万歳！ 中華民国万歳！

Copyright 2008 The Sankei Shimbun & Sankei Digital

© 2008 Microsoft | **Microsoft**